

ひだご坊真宗教化センターだより 2021年3月号

発行日:2021(令和3)年2月25日 第8号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 ☎ 0577-32-0776 web <http://hidagobo.jp> ✉ takayama@higashihonganji.or.jp

「ひだご坊」なる精神

高山別院は、飛騨における真宗興隆の象徴、「ひだご坊」として永く親しまれてきた。2019年に厳修された宗祖の御遠忌法要では、「正信偈」を同朋唱和する多くの参詣者があったことが記憶に新しい。一方で近年、参詣者の大半が高齢化し、次世代への崇敬の念の相続が困難となっている。また、別院の歴史や伝統を知らない人が増えるにつれて、別院の存在が人々の心から少しずつ薄れつつあるのを感じる。そのような、いわば別院離れに拍車をかけたのが、新型コロナウイルスの蔓延である。仏事や諸行事が軒並み中止や短縮となり、人が集まる機会は失われ、この状態がいつまで続くのか、そしてなにかも元通りとなるのか、依然不透明である。

このコロナ禍のただ中で、昨年7月岐阜高山教区が発足して以降、高山地区では別院を中心とした教化を行うこととなり、飛騨御坊真宗教化センターが設置された。このような状況下で、「別院を中心とした教化」というところの、そ

の「中心」とはいかなることなのか、あらためて私たちは確かめなければならない。もし、高山別院という場所のみを意味するのであれば、近隣の者以外は疎遠となり、再び感染が拡大したり、災害で倒壊したりなどすれば、たちまち中心の役割を失いかねない。

ここに清沢満之の次の言葉が思い起こされる。

試みに問う、大谷派なる宗門はいずれのところに存するか。(中略)巍々たる六条の両堂、すでに大谷派となすに足らず、地方一万の堂宇、すでに大谷派となすに足らず、三万の僧侶、百万の門徒、また直ちに大谷派となすに足らずとせば、大谷派なるものはそもそもいずれのところに存するか。曰く大谷派なる宗門は、大谷派なる宗教的精神の存するところに在り。(中略)いやしくもこの精神の存するところは、即ち大谷派なる宗門の存するところなり。而して、大谷派なる宗門の盛衰は、実にこの精神の消長に外ならず。

〔大谷派宗務革新の方針如何〕・

『清沢満之全集』第七巻・103頁)

大谷派という宗門は、本山の両堂でもなく、寺院や僧侶、門徒の多寡でもなく、大谷派なる宗教的精神のあるところに現前する。この清沢の確かめに重ね合わせるならば、ひだご坊とは、まさしく「ひだご坊なる宗教的精神」のあるところに顕在するものであり、この「ひだご坊なる精神」こそが別院の教化の中心でなければならない。無論、この精神は多くの念仏者が誕生した別院の歴史と伝統によって培われたものであり、その象徴が高山別院の本堂である。しかし同時に、「ひだご坊なる精神」は高山別院という特定の場にとどまらず、場を超えてはたらくものでなくてはならない。

伝統的には、ご回壇がこの精神の実働体であったが、飛騨御坊真宗教化センターもまた「ひだご坊なる精神」の新たな実働体となるべきものである。言うまでもなく、「センター」とは中心を意味するのだから。

育成部会幹事

益田組 浄福寺 三木朋哉



★センターからのお知らせ★

第5回 企画会議報告

去る2月10日、第5回企画会議が開催された。主な協議事項、確認事項は以下のとおり。

1. 組門徒会研修計画について

教区改編に伴い、岐阜高山教区として統一のカリキュラムにより実施することの内容詳細について確認。

なお、講師については、第2回目までは宗務役員及び地区内有識者が行うものとし、第3回目以降は、原則各組で講師を選出することが決定された。

2. 次年度センター運営・別院報恩講に向けて

センター設立の理念にあるよう、十文字教化体制の実動、特にセンター教化の集大成としての別院報恩講であることを確認し、センターと別院が一体となって別院報恩講勤修の準備を進めることが確認された。

組長・組門徒会長 飛騨御坊真宗教化センター懇談会報告

- 組門徒会員の新たな研修計画の伝達
- ご坊センター・高山別院からのお知らせ

去る2月17日、「組長・組門徒会長ご坊センター懇談会」が開催された。主な内容は、新たな「組門徒会研修」の実施方法について、3月以降の、教区として統一された研修の持ち方について伝達された。

聖 教 学 習 会

藤元先生の『正信偈』の講義は最終回となります。

講 師：藤元雅文氏 (大谷大学准教授)

日 時：3月12日(金) 午後1時半～4時

テーマ：『正信偈』に学ぶ

会 場：別院2階 研修室 参加費：500円

コロナ感染症拡大に配慮し、オンラインによる受講が可能です。前日までに takayama@higashihonganji.or.jp までメール送信ください。

第38回真宗公開講座 日程変更(追加)のご案内

コロナ感染症予防のため、予定していた講座の日程を以下のように変更させていただきます。

また、1講座(高山1組真宗の会主催講座)を追加いたします。何卒、ご了承くださいませようお願いします。

尾畑文正 師(三重教区 泉稱寺 前住職)

4月21日(水) 午後2時(日程変更なし)

太田浩史 師(高岡教区 大福寺 住職)

5月12日(水) 午後2時(講座追加)

朝戸臣統 師(本願寺派 神通寺 住職)

5月24日(月) 午後7時(2月22日を延期)

和田英昭 師(岐阜高山教区 照明寺 住職)

6月17日(木) 午後7時(3月15日を延期)

『青少年勤行集』の無償配布について

★子ども会・月参り・ご法事などで子どもたちに手渡しを★

親鸞聖人の御遠忌法要の記念事業として発行された『青少年勤行集』を、今後、無償にて頒布することとなりました。

各ご寺院におかれましては、縁ある青少幼年に配布いただける冊数(上限20~30冊)を無償でお渡しできますので、高山教務支所までお申し出いただきますようお願いいたします。



■江戸時代の戒名と法名

また、江戸時代初期、「宗門檀那請合之掟」というものが出された。当時、キリスト教や日蓮宗不受布施派など、邪宗門と言われたものへの対策で出されたと言われている。

一、死後死骸に頭剃刀を与え戒名を授ける事、是は宗門寺之住持死相を見届けて、邪宗にて之無く段、^{たしか}縫に受け合以上にて、引導致す可き也。^{よくよく}能々吟味を遂ぐ可き事。

とある。つまり、在家者については、生きてる間に戒名を授けることは出来ないが、死んだ時には、邪宗門ではないという証として戒名を与えよということである。

おそらく、「宗門檀那請合之掟」以降に、在家者が死後に法名や戒名を授けられるということが浸透し始めたのではないかと考える。それまでは、在家の者が戒名や法名を授かるというような習慣は、ほとんどなかったのではないかと。

戒名については先述の通りであるが、法名については、江戸時代の相伝の書物『^{ほんじょうそとう}稟承餘艸』には、存命中に授かるべきものとして記されているが、宗主（法主）による剃刀が原則となっており、物理的には、本山で剃刀を受けられるのはほんの限られた者だけであったと想像される。だから大多

数の者は、没後に住職から髮剃を受けざるをえないのが実情であったのではないかと。また、戒名が葬儀において授かることや、「宗門檀那請合之掟」の影響が法名授与にも及んで、今日に至っているということも考えられる。

■葬儀において執行される「おかみそり」

近代においては、戦死者に法名を授けたところから帰敬式（法名授与）の誤解が生じた。若くして戦死したので帰敬式を受けていない。それで葬儀の時につけた。その影響もあって、戦後、法名は亡くなってから授かるものという認識がさらに浸透し、今日まで葬儀の中で保存されているということもあるのではないかと。

こういったものの歴史が、法名にしる戒名にしる、死んでから授かるものだという意識の根底にあるのではないかと。この問題を放置して、何のための同朋会運動なのか、運動の不徹底を感ずる。

それでも、ずうっと以前、ある老婆が財布に入れてある和紙に書かれた自分の法名を見せてくれたことがあった。母親が帰敬式を受式するとき、私はまだ6歳だったけど、母親と一緒に受式したんだと言っていた。母親の愛情を有難く思っている証拠に、後生大事に財布に法名紙を入れて身から離さないでいた。1920年4月の「聖徳太子1300年御忌法要」では、3日間で合計275

4人もの方が本山で帰敬式を受けている。以前ある葬儀の時、“あの人、法名をもらっていなかったんだって”と、陰口を言っているのを聞いたことがある。死後に法名をもらうことは、不信心だという認識だろう。

今日、死後授与が常識化してしまったとはいえ、法名は生きていうちにいただくものだとの受け止めは、今日に至る歴史の中に確かにあった。

■没後の「おかみそり」は

葬式ではなくお内仏の前で行うべき

生前に法名を受ける人、死後に法名を受ける人、この比率はどうなっているか。死後に法名を受ける場合が圧倒的に多い。理由はいろいろあるだろうが、それが当然のこのように考えられていることに問題がある。法名は死者につけるものという観念が深く浸透してしまった。

ある門徒が言っていた、“法名は今はいらない。まだ死にとうない”と。この観念は葬儀の時に植えつけられる。葬式会場で沢山の人が集まっている只中で、「おかみそり」を堂々とする。法名授与は葬式の儀式的のひとつと心得られてしまうのも無理はない。

大谷派においては、未受式者の死に際しては、枕経の時に内仏の前で執行することとなっている（『葬儀中陰勤行集』）。

★別院からのお知らせ★

3月 春季彼岸永代経法座

17日(水)「ナムアミダブツ 我が世に処するの道」

内記 浄氏（往還寺住職）

18日(木)「悪性さらにやめがたし」

小原正憲氏（専念寺住職）

19日(金)「人材として働き 愚かさに気づく道に帰る」

旭野康裕氏（永養寺住職）

20日(土)「懺悔と反省」

三島多聞氏（別院輪番）

21日(日)「正信偈のころ」

橘 出氏（高山教務支所駐在教導）

22日(月)「彼岸とは」

白尾公信氏（了心寺住職）

23日(火)「聖徳太子 1400 回忌に寄せて」

三枝正尚氏（随縁寺住職）

高山別院御堂番 休止期間延期のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、さらに、令和3年3月6日（土）までの御堂番を休止いたします。

一口法話 web ひだご坊で配信中！
https://hidagobo.jp/

3月のお話

3月 1日～ 宮本美和子氏（朝高組 長圓寺門徒）

3月 16日～ 上清水信男氏（高山二組 西蓮寺門徒）

※印刷したものの郵送をご希望される方は、教務支所までご一報ください。

本山莊川桜が芽吹きはじめました



一本山から届く春の便り—御遠忌の記念で本山阿弥陀堂南側に植樹された「本山莊川桜」が今年も芽を吹いています。おそらく、3月中旬には咲き始めることでしょう。



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年3月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
1	月			
2	火			
3	水	13:00	別 嘉念坊善後上人御命日法要（内勤め）	本堂
4	木			
5	金	13:30	教 真宗同朋会執行部会	研修室
6	土			
7	日			
8	月			
9	火	14:00 19:00	セ 児連研修会（Web） 組 高山二組親鸞教室③	ミーティングルーム ご坊会館
10	水			研修室
11	木	13:00 14:00	別 大谷婦人会定例 法話：輪番 セ 慶讃法要推進委員会	御坊会館 研修室
12	金	13:30	教 聖教学習会（講師：藤元雅文氏）	研修室
13	土	7:00 11:00	別 前住上人ご命日 別 納骨経	本堂 本堂・御坊会館
14	日	9:00	別 おみがき	本堂
15	月	7:00	別 一日華	
16	火	13:30	セ 企画会議	研修室
17	水	13:00	別 彼岸会 法話：内記 浄氏（往還寺住職）	本堂
18	木	13:00	別 彼岸会 法話：小原 正憲氏（専念寺住職）	本堂
19	金	13:00	別 彼岸会 法話：旭野 康裕氏（永養寺住職）	本堂
20	土	13:00 19:30	別 彼岸会 法話：三島 多聞氏（別院輪番） 組 清見組門徒会・研修会	本堂 了因寺
21	日	13:00	別 彼岸会 法話：橘 出氏（高山教務支所駐在）	本堂
22	月	13:00 19:00	別 彼岸会 法話：白尾 公信氏（了心寺住職） 組 益田組門徒会・研修会	本堂 浄福寺
23	火	13:00 14:00 19:00	別 彼岸会 法話：三枝 正尚氏（随縁寺住職） セ 「是旃陀羅」問題教区学習会打合せ 組 二組親鸞教室④	本堂 センター室 ご坊会館
24	水			
25	木	13:00 14:00 19:00	別 蓮如忌（内勤め） 教 高山二組門徒会・研修会 教 教化研究所	本堂 本堂 研修室
26	金			
27	土	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話：野崎 尚齊氏（西正寺住職）	本堂
29	月		教 得度事前研修会	高山教務支所
30	火			
31	水			

4月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
8	木	14:00	教 聖典学習会 サテライト	9	金	19:00	組 二組親鸞教室④